

参考消息（新・5号・20121002）

8月から9月前半まで、欧州、中国東北部、北朝鮮まで周遊してきた。ベルリンではJDZB (Japanese German Centre Berlin)の方と日中関係のことについて意見交換したが、世界2位と3位の大国が地球の裏であのちっぽけな島でむきになって喧嘩していることのナンセンスを感じた。北朝鮮の羅津・先鋒「中朝共同開発区」を見て、東アジア情勢は東京で見えないところで大きく動いているとも思った。

しかし Far East に戻ってくると、日中対立が更にヒートアップする現実直面せざるを得ない。この号は中国で報じられている「反日デモ」の裏側を紹介しつつ、釣魚島問題の深刻さを伝えたい。中国政治はいよいよ第18回党大会を迎え、その意味するものも考えてみたい。

反日デモの様々な側面

9月中旬、深せん、上海など反日デモの中心地域をちょうど回っていた。その空まで響く怒号の波に圧倒され、同時に多くの若者が「誰からもとがめられない暫しの自由空間」を満喫しているようにも感じられた。

中国の記者が自ら参加した北京デモの体験記と彼が撮影した北京デモのスローガンが独立系の財経網に掲載された。外国人が理解しにくい私服警察の「誘導」、デモ行列の中で起きる「啼笑皆非」の事情を知る、理解するいい記事だと思う。

<http://comments.caijing.com.cn/2012-09-21/112144247.html>

http://photos.caijing.com.cn/2012-09-18/112135685_1.html

しかし「印咬死小日本 意淫式愛国」との題で冷ややかに紹介された「反日月餅」の写真も見つけた。

<http://club.kdnet.net/dispbbs.asp?page=1&boardid=1&id=8649211>

デモが過激な焼討ち暴動に発展したのは一部の都市の一部の人間とは言え、中国のイメージを傷つけたことは間違いない。今回の「暴れる主役」が2005年当時の大学生から出稼ぎ労働者に移ったと指摘され、同じ青島でも、市内の日系事務所、店は被害を受けず、遠い郊外の「黄島」開発区でひどい焼打ち事件が発生したという現象。それが示唆する中国社会の変動を考えていく必要がある。

「918」以降、中国のマスコミでデモを諷める記事が増えた。

台湾旺報：降温 陸媒大篇幅痛斥暴力

<http://news.chinatimes.com/mainland/11050501/112012092200203.html>

反省の声も多く出た。騰訊網の特集：「不必為“不理性”反日過分悲觀」

<http://view.news.qq.com/zt2012/pifu/index.htm>

日本車を壊す暴力行為が発生した場所に進入する道の前に立って、「日本車の運転手さん、この道を避けよう」との紙を手を持つ若者が今、「勇気ある若者」と称えられて

いる。

<http://news.qq.com/a/20120917/000758.htm>

「愛国無罪」という言葉は1919年の五四運動以来、ずっと中国の若者が当局の規制に反発し、取り締まられるのに抗議するスローガンだが、今回も使われた。それに対する批判も行われている。 新京報：愛国就該和“非理性”切割

<http://view.news.qq.com/a/20120917/000012.htm>

人気のネット談話室「凯迪社区」には、在米中国人学者が書いた、中国政府が「ガス抜き」で反日デモの暴れを最初の段階で阻止しなかったことの危険性を戒める記事が掲載された。 为何要警惕民意宣泄

<http://club.kdnet.net/dispbbs.asp?page=1&boardid=1&id=8673987>

当局は918以降、犯罪者の逮捕に乗り出し、下記の記事によると、すでに青島では6人、深センでは7人、広州では10人、長沙では6人が逮捕されている。

媒体称西安重伤日系车主嫌犯最高可被判死刑

<http://club.kdnet.net/dispbbs.asp?page=1&boardid=1&id=8674646>

北京ではデモの途中、老人を殴った某大学の助教授への追究要求が人民網で出ている。 西安抓捕車主重傷案嫌犯 北京掌摑老人事有待處置

<http://yuqing.people.com.cn/BIG5/n/2012/1004/c210118-19171048.html>

「アンチ日本」の嵐が過ぎ去ったばかりだが、日本のことを評価する著名人の記事が多く出ていることで中国社会のバランスも見た。

换个角度看日本

<http://club.kdnet.net/dispbbs.asp?page=1&boardid=1&id=8107327>

不得不对日本社会竖大拇指(組図)

<http://club.kdnet.net/dispbbs.asp?page=1&boardid=1&id=2984757>

資中筠：日本“知華”与中国“知日”的差距

<http://comments.caijing.com.cn/2012-09-26/112154102.html>

閻丘露薇：当日本人在改变

<http://comments.caijing.com.cn/2012-09-28/112162104.html>

なお、人気ドラマ「亮劍」が、日中戦争中に実際は八路軍側の敗北だった関家 Nao 戦闘をあたかも八路軍側が勝利したかのようストーリーで表現したことを暴露し、批判した記事も出て、話題を呼んでいる。

<http://club.kdnet.net/dispbbs.asp?page=1&boardid=1&id=8674623>

「釣魚島」問題は中国の対日政策に深刻な影響

9月10日に日本政府が魚釣島他三つの島の国有化を閣議決定した後、中国からは「予想を超える」（野田首相の言葉）猛反発と「反制措置」を繰り返した。

釣魚島問題に関する中国の白書（日本語）：

<http://www.china-embassy.or.jp/jpn/zt/diaoyudao/zhongfanglichang/t973306.htm>

英語は <http://www.fmprc.gov.cn/eng/zxxx/t973774.htm>

中国側はなぜ怒ったのかについて、筆者は10月5日ごろに発行する『世界』誌11月号に書いているので参照されたい。その上、ここ数日になって、その背後にもっと深刻な事態が進行中であることに気付いた。

9月末、唐家璇（元外相）が日本側に対し、胡錦濤主席がAPEC会場で野田首相に国有化を思い直すよう申し入れた直後に閣議決定があったことで「メンツがつぶされた」と話した、と伝えられた。

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/120928/chn12092801060002-n1.htm>

実はその背景はもっと複雑のようだ。胡錦濤主席は「自分はここ10年、日中改善に尽力してきた」自負があり、APECで「最後の努力を自らしよう」と決めた。直前に韓国側は野田首相の竹島をめぐる親書の受け取りを拒否したが、中国側は野田首相の親書を受け取った。日韓首脳がAPECで会わないのは決まっていたが、北京からの提案で胡・野田「立ち話会談」が急きょ設定された。しかし胡錦濤の申し入れの翌日に国有化の閣議決定が行われた。これで、ただ一人の首脳のメンツが潰された程度ではなく、この10年間進められた「胡錦濤の対日宥和路線」が中国指導部内で否定されたという重大な意味をもつかもしいない。

筆者の知っている限り、胡錦濤主席は就任直後からそれまでの対日政策を軌道修正し、「対日新思考」を主張して袋叩きにされた数人の学者を中南海に呼び、改善意見を聞いた。08年、福田首相との共同宣言、東シナ海ガス田の共同開発合意にこぎつけたのがその努力のピークだった。直後に日本外相（当時）が春暁について「日中の共同開発」（合意は中国の開発に日本側が出資）を強調して当日、中国外交部の批判を受けた。福田首相の早期退任もあり、中国国内の主権重視派が反転攻勢をかけ、年末に海洋監視船を釣魚島に出動した。2010年の衝突事件を経て中国首脳部内の対日重視派が明らかに後退し、今回の「国有化」で形勢は完全に変わった。

この背景が分かれば、「国有化」後、9人の政治局常務委員のうち8人が対日批判し、釣魚島周辺への「反制措置」を矢継ぎ早に出したことの解釈は付く。日本政府が「領土問題が存在しない」と言えば言うほど、中国側はこれら一連の措置をもって「領土問題が存在する」ことを日本また国際社会に主張していくスパイラルに入った。

9月末に北京で開かれた会議で中国社会科学院日本研究所のナンバー1と2が行った発言はそのような強硬な姿勢を示すものと思われる。

李薇：中国已没有承担单方面克制的義務

<http://world.people.com.cn/n/2012/0928/c1002-19145762.html>

高洪：解決釣魚島争端，两国急需新共識

<http://world.people.com.cn/n/2012/0928/c1002-19146206.html>

徐敦信元大使は依然、外交ルートによる解決を主張するが、そのトーンも厳しくなっている。日本副外長来華就釣魚島問題談判又是一个幌子

<http://world.people.com.cn/n/2012/0928/c1002-19145851.html>

中国側は、①島の主権紛争と棚上げ論を認めて問題を凍結するという「低いレベルの均衡」にするか、②日本が行使している実効支配と同等のレベルまで中国もプレゼンスを高めるという「高いレベルの均衡」(李所長がいう「動態平衡」)、という両睨みの作戦を展開しているように見られる。

華破既定事實 逼日承認共治爭議領土

<http://news.creaders.net/headline/newsViewer.php?nid=533215&id=1190862&dcid=16>

中日釣魚島開打 “消耗戦”

<http://global.dnews.com/big5/news/2012-10-03/58884610-all.html#page1>

日本側は中国国内の社会混乱、権力闘争、経済衰退を過大評価して「冷却期間を置く」駝鳥政策を今後もとっていくのか。時間を無駄にすれば、決断力のなさ和个人リスク回避によって失うものはるかに多いように思えてしまう。

忠言はいつも耳に痛い。しかし過ぎてからは忠言だと分かる。

中国政治の新しい展開

中国政治にも予想を超える展開が続いている。薄熙来がここまで追究されるとは正直に予想できなかった。権利意識が高揚し、情報は隠せないネット社会になり、首脳部は党の「最後の自浄能力」にかけて事実を公開し厳しい処分を下す決断を下したのである。 中共当依法嚴懲薄熙來 讓 “入局不死” 成過去式

<http://china.dnews.com/big5/news/2012-10-03/58884359-all.html#page1>

しかし民衆の不信感は依然根強い。そもそもだれが薄熙来を今日まで権力の座に置かせたのかとの問いが相次いでいる。薄熙来愈高升愈腐敗誰給他權力

<http://opinion.dnews.com/big5/news/2012-10-03/58884711-all.html#page1>

政治局常務委員の人事はまだ最終決定に至っていないようだ。上海の Y 氏は一時期、待望論が強かったが、最近になってすっかり息をひそめた。胡錦濤が「次の次」に胡春華を指定したと韓国紙はスクープしているが、その話自身、まだ「時期尚早」ではないか。5年後の党大会に向けてこれから数人の候補者の中から絞られていくであろう。

9月前半、雲隠れしていた習近平はまたフル活動している。やはり強運の持ち主のようだ。病気を乗り越え、今回の薄熙来事件の処理を担当して相当点数を稼いだようだ。習近平主導薄熙来案 登台前大展領袖氣魄

<http://china.dnews.com/news/2012-10-01/58880312-all.html#page1>

このままでいくと、胡錦濤派来年3月に軍事委主席から引退する可能性も増えているのではないか。

薄熙来事件の処理やニューリーダーたちの特徴を検証した上で中国新指導部の特徴を分析した二つの記事も読む価値がある。

薄案處理透露十八大后中共執政變化

<http://china.dwnews.com/big5/news/2012-10-03/58884449-all.html#page1>

十八大后中國經濟政策將出現重大變化

<http://opinion.dwnews.com/big5/news/2012-10-03/58883429-all.html#page1>

欧米では中国の台頭を冷静に受け止める傾向があり、中国のいいところは見習おうとの声も出ている。 英媒：中国大胆挑戦 西方陥入被動

http://www.bbc.co.uk/zhongwen/simp/chinese_news/2012/10/121002_press_ccp.shtml

中国社会の「擬似的民主化」はネットの世界を中心に確実に進行している。延安で起きたバス衝突事故の現場で笑っていた担当局長を撮影したたった1枚の写真によって、怒った「網民」たちは「人肉捜査」を展開して、その局長のつける高価の腕時計とベルトを割り出し、集中砲火を浴びせた結果、彼を免職に追い込んだ。このようなケースは最近の中国で頻発している。日本よりも「男がつらい」ようだ。

陝西“微笑局長”被撤職後市民仍要求公開其工資

<http://www.022net.com/2012/9-22/515757323020508.html>

次号はもう少し身軽く、早く発行するように努力しよう。